

砺波東部小学校3学年の取り組み

- 1 実践事例 3学年道徳（H19年7月実施）
- 2 主題名 いのちを大切に作る（③-2にかかわって）
資料名 お母さんかないで（文溪堂）

3 主題について

子供たちは、生きていることを当たり前と思い、生きていることのすばらしさを意識しないで生活している。「自分の命は自分で守る」と分かっているにもかかわらず、交通事故や水の事故など身の回りの危険に対して油断したり、誘惑に負けて危険な行動をとったりしてしまう。そこで、夏休みをむかえる時期に子供たちが「死」について考えることによって、生きることの意味や命はかけがえのないものであることに気づいてほしいと考えて本主題を設定した。

本資料は、主人公「わたし」が、友達の正子を交通事故で亡くし、形見に残されたぬいぐるみと手紙を見て自分の命を大切にし、力強く生きていこうとする気持ちをもつ話である。大切な友達を失った悲しみを想像することによって主人公の気持ちに共感し、命は二度と元にもどらないことや元気に精いっぱい生きることの大切さに気づくようにした。

4 実際の授業の概要

（1）友達の死を知ったときの主人公の気持ちを考える

- | | |
|-----|-------------------------------------------------------------------|
| T1 | 正子さんが事故で亡くなったことを聞いて、ぼう然とした「わたし」はどんなことを思っていますか。 |
| C1 | なんで事故なんかにあったの？ |
| C2 | とても気をつける人だったのに、かわいそう。 |
| C3 | ショックだ。悲しい。わたしのおじいちゃんが死んでしまったとき、わたしをかわいがってくれていたから、すごく悲しかった。 |
| C4 | もういないなんて、さびしい。飼っていたネコが暑さで死んでしまったとき、自分がいちばん世話をしていたから、いなくなってさびしかった。 |
| C5 | もっと話したり遊んだりしたかったのに、もうできない。 |
| C6 | 正子さんは、やりたいこともできないんだ。かわいそう。 |
| T2 | <u>死んでしまったら、どんなことができなくなるんですか。</u> |
| C7 | 人間としてやっていることが、何もできない。 |
| C8 | 家族にも友達にも会えない。 |
| C9 | 夢もかなわなくなる。ぼくは、サッカー選手になりたいけど死んでしまったらなれない。 |
| C10 | 残り何十年も楽しいことが待っていたのに、それが全部なくなる。 |
| C11 | 死ぬのはいやだ。事故に気をつけなくちゃいけない。 |
| C12 | 生きている今のうちに、どんなことにもがんばりたい。 |

子供たちは、自分の家族や飼っていた生き物の死に直面したときの悲しい、さびしい気持ちを思い起こし、主人公の気持ちに共感することができた。その際に、「死んでしまうことは、どんなことなのか」ということを考える場を設定したことによって、死によって

何もできなくなる、夢も失われることに気づくことができ、命がかけがえのないものであることを感じたようである。

(2) 正子さんの形見のぬいぐるみを見た主人公の気持ちを考える

- T₁ 正子さんがゆずってくれたモンちゃんを見て、「わたし」はどんなことを考えていますか。
- C₁ 大切なものをゆずってくれてありがとう。
- C₂ わたしが欲しがっていたからゆずってくれたんだね。正子さんの分もかわいがるよ。
- T₂ 正子さんは、どんな気持ちでモンちゃんをゆずってくれたのかな。
- C₃ わたしを忘れないで。ずっと友達だよ。
- C₄ 事故に気をつけてね。モンちゃんをお守りににしてね。
- C₅ ずっとかわいがってね。見ているよ。
- T₃ 正子さんの気持ちが「わたし」に届いていますか？正子さんの気持ちが分かって、どんなことを考えましたか。
- C₆ わたしのことを考えてくれていたんだね。ずっと友達だよ。
- C₇ 交通事故に気をつけるよ。
- C₈ 正子さんの分も何でもがんばっていくよ。

ここでは、自分の命を大切に生きていこうとする気持ちが高まるようにしたいと考え、亡くなった正子さんが言いたいことを想像する場を設定した。子供たちは、死んでしまうと、ただ見守ることしかできないが、生きていけると何でもできることに気づいていた。

(3) 命を大切にするために、自分はどんなことをするか考える

子供たちの感想から、かけがえのない自分の命を自分で守ろうと感じていることが分かった。学級活動の安全指導とかかわらせて道徳の時間を設定することによって、子供の危険に対する考え方が真剣になり、よく考えて安全に行動しようとする気持ちが高まる。

死んでしまったら家族にも友達にも、だれにも会えないんだと考えたら、さびしいし、こわくなりました。わたしは、これまで横断歩道をわたるとき、めんどろだったから手を挙げていませんでした。自分の命を守るために、しっかり手を挙げようと思いました。

(H子)

命がなくなったら自分がやりたいことができなくなるし、夢もなくなるし、死ぬのはいやです。信号を無視しない、右左を確かめて道路をわたる、信号がないところは、止まって確かめてからわたるということを守りたいと思いました。できることはがんばりたいと思いました。

(N子)

4 実践をした感想

資料の内容が「死」を扱う内容なので、落ち着いた雰囲気づくり、真剣に話し合う環境づくりが大切だと感じた。事前に子供の身近で起きた「死」(家族やかわいがっていた生き物など)について、そのときの自分の気持ちを振り返っておいたことがよかった。